

令和3年度 指定管理者年度評価シート

1 公の施設の基本情報

施設名称	千葉市中央いきいきプラザ 千葉市花見川いきいきプラザ 千葉市稲毛いきいきプラザ 千葉市若葉いきいきプラザ 千葉市緑いきいきプラザ 千葉市美浜いきいきプラザ	千葉市蘇我いきいきセンター 千葉市花見川いきいきセンター 千葉市さつきが丘いきいきセンター 千葉市あやめ台いきいきセンター 千葉市大宮いきいきセンター 千葉市都賀いきいきセンター 千葉市越智いきいきセンター 千葉市土気いきいきセンター 千葉市真砂いきいきセンター
条例上の設置目的	<ul style="list-style-type: none">● 千葉市老人福祉センター設置管理条例(昭和59年千葉市条例第20号) 第1条で設置する老人福祉センター● 千葉市いきいきセンター設置管理条例(平成14年千葉市条例第14号) 第1条で設置するいきいきセンター	
ビジョン (施設の目的・目指すべき方向性)	<ul style="list-style-type: none">● 高齢者の健康の増進、教養の向上、世代間交流等の機会を提供することにより、高齢者が健康で生きがいのある生活を送ることができる地域社会を構築していく。● 高齢化の進展を見据え、できる限り住み慣れた地域で高齢者が自立した生活が送れるよう、「地域包括ケアシステム」の構築・強化を図っていく。	
ミッション (施設の社会的使命や役割)	<ul style="list-style-type: none">● 高齢者が学習意欲を發揮し、地域社会への参画意識を持てるような機会を提供していく。● 高齢者の健康づくりや介護予防の場を提供していく。	
制度導入により見込まれる効果	市民サービスの向上により、さらに多くの高齢者に施設を利用してもらう	
成果指標※	① 施設利用者数 ② 利用者アンケートによる利用者満足度	
数値目標※	① 令和元年度利用者数を基準とし、千葉市の高齢者人口の伸び率を乗じた人数以上 ② 満足度80%以上	
新型コロナウイルスの影響	<ul style="list-style-type: none">● 部屋の定員を半分にして各種事業を実施。● 囲碁・将棋・健康マージャンは、令和3年4月1日から令和3年10月24日までの間は利用制限。● カラオケ・合唱・スポーツ吹矢は、令和3年4月1日から令和3年10月24日までの間及び令和4年1月21日から令和4年3月31日までの間を利用制限。	
所管課	保健福祉局高齢障害部高齢福祉課	

2 指定管理者の基本情報

指定管理者名	社会福祉法人 千葉市社会福祉協議会 (旧：千葉市社会福祉事業団)
構成団体 (共同事業体の場合)	
主たる事業所の所在地	千葉市中央区千葉寺町1208番地2
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日 (5年)
選定方法	非公募
非公募理由	平成23年度に実施した外郭団体の事務事業の見直しの結果を踏まえ、いきいきプラザ及びいきいきセンターのような安定的なサービス供給が求められる施設の指定管理については、公募によらない方法により、外郭団体に行わせるべきサービスとして整理され、平成24年度に各条例を改正し、公募によらない方法により指定管理を行うこととなった。
管理運営費の財源	指定管理料

3 管理運営の成果・実績

(1) 施設利用者数

施設名	数値目標(※1)	R3年度実績	達成率	評価
千葉市中央いきいきプラザ	57,698人	23,319人	40.4%	評価項目から除外します。
千葉市花見川いきいきプラザ	68,041人	24,081人	35.4%	
千葉市稲毛いきいきプラザ	68,864人	42,805人	62.2%	
千葉市若葉いきいきプラザ	81,701人	35,900人	43.9%	
千葉市緑いきいきプラザ	65,357人	33,657人	51.5%	
千葉市美浜いきいきプラザ	117,313人	52,253人	44.5%	
千葉市蘇我いきいきセンター	21,990人	11,028人	50.2%	
千葉市花見川いきいきセンター	31,719人	11,353人	35.8%	
千葉市さつきが丘いきいきセンター	19,223人	9,606人	50.0%	
千葉市あやめ台いきいきセンター	20,258人	10,515人	51.9%	
千葉市大宮いきいきセンター	10,321人	5,651人	54.8%	
千葉市都賀いきいきセンター	22,825人	11,008人	48.2%	
千葉市越智いきいきセンター	12,556人	6,813人	54.3%	
千葉市土気いきいきセンター	19,920人	8,766人	44.0%	
千葉市真砂いきいきセンター	18,621人	8,967人	48.2%	
合計	613,581人	295,722人	48.2%	

※1 R4年3月末60歳以上人口309,098人÷R1年3月末全市60歳以上人口300,871人=102.73%
各施設R1年度実績×102.73パーセント=数値目標

(2) 利用者アンケートによる満足度

施設名	数値目標	R3年度実績(※2)	達成率	評価
千葉市中央いきいきプラザ		78.6%	98.2%	C
千葉市花見川いきいきプラザ		84.5%	105.6%	B
千葉市稲毛いきいきプラザ		84.5%	105.7%	B
千葉市若葉いきいきプラザ		86.6%	108.2%	B
千葉市緑いきいきプラザ		83.2%	104.0%	C
千葉市美浜いきいきプラザ		75.8%	94.7%	C
千葉市蘇我いきいきセンター		79.5%	99.3%	C
千葉市花見川いきいきセンター	80%	82.9%	103.7%	C
千葉市さつきが丘いきいきセンター		88.1%	110.2%	B
千葉市あやめ台いきいきセンター		89.5%	111.8%	B
千葉市大宮いきいきセンター		87.5%	109.4%	B
千葉市都賀いきいきセンター		88.6%	110.8%	B
千葉市越智いきいきセンター		87.3%	109.1%	B
千葉市土気いきいきセンター		84.9%	106.1%	B
千葉市真砂いきいきセンター		81.0%	101.3%	C
合計		82.5%	103.1%	C

※2 算定方法は、6(1)アンケート質問8(6)の(満足+ほぼ満足)÷回答者数で算定

【評価の内容】※数値はいずれも原則であり、特殊な事情がある場合は当該事情も含め、総合的に判断する。

A：成果指標が市設定の数値目標の120%以上(ただし、指定管理者設定の目標に達していない場合はBとする。)

B：成果指標が市設定の数値目標の105%以上120%未満(ただし、指定管理者設定の目標に達していない場合はCとする。)

C：成果指標が市設定の数値目標の85%以上105%未満

D：成果指標が市設定の数値目標の60%以上85%未満

4 収支状況

(1) 収入

(単位：千円)

費目	R3年度		[参考] R2年度	計画実績差異		主な要因
	分類	金額		分類	金額	
指定管理料	実績	613,016	590,338	実績－計画	△ 34,587	以下①のとおり 予算編成時に精査したため。
	計画	647,603	646,084	計画－提案	△ 22,393	
	提案	669,996	678,966			
利用料金収入	実績	0	0	実績－計画	0	
	計画	0	0	計画－提案	0	
	提案	0	0			
その他収入	実績	12,828	1,132	実績－計画	△ 22,393	拠点区分間繰入金収入
	計画	0	0	計画－提案	0	
	提案	0	0			
合計	実績	625,844	591,470	実績－計画	△ 21,759	
	計画	647,603	646,084	計画－提案	△ 22,393	
	提案	669,996	678,966			

(2) 支出

(単位：千円)

費目	R3年度		[参考] R2年度	計画実績差異		主な要因
	分類	金額		分類	金額	
人件費	実績	422,347	400,398	実績－計画	△ 15,077	職員の人事異動による 予算編成時に精査したため。
	計画	437,424	437,424	計画－提案	△ 4,825	
	提案	442,249	442,249			
事業費	実績	88,300	64,659	実績－計画	△ 9,201	以下②のとおり 予算編成時に精査したため。
	計画	97,501	97,501	計画－提案	△ 19,818	
	提案	117,319	117,319			
事務費 (委託料を除く)	実績	43,691	41,799	実績－計画	686	以下③のとおり 予算編成時に精査したため。
	計画	43,005	43,005	計画－提案	△ 8,986	
	提案	51,991	51,991			
委託費	実績	55,485	52,168	実績－計画	3,098	予算編成時に精査したため。
	計画	52,387	52,387	計画－提案	364	
	提案	52,023	52,023			
その他事業費	実績	10,846	21,944	実績－計画	△ 4,921	職員の人事異動による ファイナンスリース債務の返済 支出を事業費から科目変更した ため
	計画	15,767	15,767	計画－提案	383	
	提案	15,384	15,384			
本社費・共通費	実績	0	0	実績－計画	0	
	計画	0	0	計画－提案	0	
	提案	0	0			
合計	実績	620,669	580,970	実績－計画	△ 25,415	
	計画	646,084	646,084	計画－提案	△ 32,882	
	提案	678,966	678,966			

※「計画」とは、事業年度ごとの事業計画書で定めた計画額を示す。

「提案」とは、選定時の提案書、事業計画書で指定管理者が提案した見積額を示す。

①収入の「実績－計画△34,587」の差額の主な要因について

- 新型コロナウイルスの影響により開催できなかった講座の講師費用(2,892千円)、及び同理由による若葉いきいきプラザ露天風呂閉鎖による光熱水費余剰(1,744千円)を市へ返還したため。
- 事務費(福利厚生費)と人件費の残額(29,951千円)を市に返還したため。

②事業費の「実績－計画△9,201」の差額の主な要因について

- 水道光熱費・燃料費 △1,744千円 → 若葉いきいきプラザ露天風呂閉鎖による光熱水費余剰
- 教育指導費 △2,892千円 → 新型コロナウイルスの影響により開催できなかった講座の講師費用

③事務費(委託料を除く)の「実績－計画686」の差額の主な要因について

- 修繕費 967千円 → 若葉いきいきプラザ熱交換器の交換
- 修繕費 205千円 → 稲毛いきいきプラザ漏水ポンプ交換

5 管理運営状況の評価

(1) 管理運営による成果・実績（成果指標の目標達成状況）

評価項目	市の評価	特記事項
施設利用者数	—	新型コロナの影響により減じており評価項目から除外します。
利用者アンケートによる満足度	C	3（2） 達成率103.1%

【評価の内容】※数値はいずれも原則であり、特殊な事情がある場合は当該事情も含め、総合的に判断する。

A：成果指標が市設定の数値目標の120%以上（ただし、指定管理者設定の目標に達していない場合はBとする。）

B：成果指標が市設定の数値目標の105%以上120%未満（ただし、指定管理者設定の目標に達していない場合はCとする。）

C：成果指標が市設定の数値目標の85%以上105%未満

D：成果指標が市設定の数値目標の60%以上85%未満

E：成果指標が市設定の数値目標の60%未満

(2) 市の施設管理経費縮減への寄与

評価項目	市の評価	特記事項
市の指定管理料収入決算／提案額の削減	—	新型コロナの影響により減じており評価項目から除外します。

【評価の内容】※数値はいずれも原則であり、特殊な事情がある場合は当該事情も含め、総合的に判断する。

A：選定時の提案額から10%以上の削減

B：選定時の提案額から5%以上10%未満の削減

C：選定時の提案額と同額又は5%未満の削減

(D・E：選定時の提案額を超える支出を行うことはないため、該当なし)

—：対象外（市の指定管理料支出がない。）

(4) 保健福祉局指定管理者選定評価委員会意見を踏まえた対応

意見の内容	意見対象年度	対応・改善の内容
<p>介護予防についての評価を示す指標についてご検討いただきたい。</p>	<p>令和3年度</p>	<p>生きがい活動支援通所事業とボディーアスクールの利用者を対象に活動前半・後半期に体力測定を実施することで検証を試みた。 令和3年度は新型コロナの影響により一部事業の休止や定員削減などを行ったものの、休館することはなかったため、初めて年間を通じて調査・検証を行うことができたが、検証の結果、事業の実施による体力の向上を見出すことができなかった。 このため、効果測定シートの見直しのほか、現場からの意見を踏まえた事業内容の見直しも併せて行っていくことにより、介護予防の効果を見える化させていく。</p>
<p>感染対策を行いながら、引き続き新規利用者や既存の利用者の利用を促進できるような工夫に努めていただきたい。また、男性利用者が減少しているため、男性の利用を促進できるような工夫にも努めていただきたい。</p>		<p>感染症対策は、来館者の検温、手指消毒を実施し定時のアルコール消毒、換気、3密の回避に努めながら運営した。クラスターに繋がる事例は発生していない。男性利用者増への取組みは、男性の興味関心が高そうなテーマの講演会（例「海釣り入門」）や男性が参加しやすいネーミングの講演会（例「俺のお腹をひっこめたい操」）を設定する等、男性利用者増に取り組んだ。</p>

6 利用者ニーズ・満足度等の把握

(1) 指定管理者が行ったアンケート調査

調査方法	令和3年10月1日～31日の間、来館者全員にアンケート用紙配布。無記名にて記入の上、アンケート箱設置による回収。
回答者数	5,465人

令和3年度アンケート結果

							回答者数合計 (人)		
							5,465		
回答者個人属性								(人)	
居住区								(人)	
中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区	市外	無回答		
734	795	777	919	829	1,264	37	無回答	110	
性別								(人)	
男性	女性	無回答							
1,265	3,747	453							
年代								(人)	
60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳～	無回答			
102	502	1,521	1,664	1,147	374	155			
世帯構成								(人)	
ひとり暮らし	60歳以上のみの世帯	その他	無回答						
1,003	2,233	1,203	1,026						
質問1 ご利用いただいている内容は次のうちどれですか。(複数回答可)								(人)	
講座	1,666	同好会活動	2,676	ヘルストロン・マッサージ機	96				
講演会	175	体操教室	565	テレビ視聴	5				
機能回復訓練	295	入浴・シャワー	78	新聞・雑誌閲覧	15				
生きがい活動	827	カラオケ	29	その他	89				
世代間交流	63	囲碁・将棋	38	無回答	187				
生活・健康相談	35	トレーニング機器	26						
質問2 ご利用いただいている目的は次のうちのどれですか。(複数回答可)								(人)	
介護予防	体力増進	心配ごとの相談	友人との交流	生きがいづくり					
813	2,199	37	1,392	1,178					
教養・知識の習得	趣味・レクリエーション	入浴	その他	無回答					
1,271	1,585	57	56	201					
質問3 どのくらいの頻度でご利用いただいていますか。								(人)	
ほぼ毎日	週4～5日	週2～3日	週1回	月1～2回	年に数回	無回答			
0.9%	1.5%	9.5%	22.0%	62.6%	1.2%	2.3%			
50人	82人	520人	1,202人	3,421人	67人	123人			
質問4 いつからご利用されていますか。								(人)	
今年から	1年前から	2年前から	3年前から	4年前から	5年以上前から	無回答			
14.2%	4.6%	8.4%	11.1%	8.4%	48.5%	4.9%			
774人	252人	457人	608人	457人	2,651人	266人			
質問5 利用開始時に介護認定を受けていましたか。受けていた場合は、判定結果をご回答ください。								(人)	
受けてない	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	無回答	合計
5,046	50	18	9	2	1	5	0	334	5,465
質問6 現在、介護認定を受けていますか。受けている場合は、判定結果をご回答ください。								(人)	
受けてない	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	無回答	合計
4,505	60	26	18	3	1	3	0	849	5,465
質問7 主催事業にご参加いただく際、何からお知りになりますか。(複数回答可)								(人)	
市政だより	いきいきプラザだより	ホームページ	館内掲示	自治会等の回覧	知人の紹介	その他	無回答		
3,384	865	48	610	76	912	89	383		
質問8 運営状況について、感想をお聞かせ下さい。								(人)	
設問	満足	ほぼ満足	普通	やや不満	不満	無回答			
(1)設備・備品類の配備状況について	25.7%	45.8%	25.1%	1.1%	0.1%	2.3%			
	1,403人	2,504人	1,369人	58人	5人	126人			
(2)施設的环境(衛生面・安全性)はいかがですか	29.2%	44.9%	23.3%	0.7%	0.1%	1.8%			
	1,597人	2,452人	1,273人	39人	4人	100人			
(3)職員の対応はいかがですか。	44.3%	39.5%	15.8%	0.1%	0.0%	0.3%			
	2,389人	2,133人	855人	4人	1人	15人			
(4)施設や事業の案内、お知らせは充分にできていますか。	23.1%	40.2%	31.9%	1.3%	0.1%	3.5%			
	1,262人	2,195人	1,741人	72人	5人	190人			
(5)ご利用いただいて介護予防になると感じられますか。	35.8%	42.0%	13.2%	0.8%	1.1%	7.2%			
	1,955人	2,297人	719人	42人	58人	394人			
(6)全体としてどのように感じますか。	27.3%	52.7%	16.5%	0.4%	0.1%	3.0%			
	1,491人	2,882人	904人	22人	3人	163人			
※(4)の回答は、「充分、ほぼ充分、普通、やや不十分、不十分、無回答」から選択									
※(5)の回答は、「そう思う、まあまあそう思う、普通、やや思わない、思わない、無回答」から選択									
※成果指標の利用者アンケートによる満足度は(6)の(満足+ほぼ満足)÷回答者数で算定									
82.5%									

※各施設ごとのアンケート結果については、「参考資料1の1-4」に掲載。

(2) 市・指定管理者に寄せられた主な意見・苦情と対応

苦情については、指定管理者内部で概ね対応がなされており、市へ寄せられた苦情は年間3件と少なかった。「市に寄せられた主な意見・苦情」の欄には一例を記載しています。

市に寄せられた主な意見・苦情	市の対応
ワクチン2回接種済みなので、囲碁の利用を早期に再開してほしい。	①新型コロナウイルスのワクチン接種が進む一方で、変異株の拡大など感染動向が見通せないこと ②厚生労働省が、ワクチン接種後も感染防止策の継続を呼びかけていること ③市では、感染動向や国の動向を踏まえて制限の解除を検討することを伝えて、現時点において解除は困難であることに理解を得た。 ※令和3年10月25日から囲碁の利用を再開している。
指定管理者に寄せられた主な意見・苦情	指定管理者
講演会の申込に朝から並んだが、定員満員で申し込みなかった。電話が優先されることに納得いかない。	感染予防のため定員が少ないことを謝罪するとともに、今後は先着順ではなく抽選とすることをお伝えし理解を得た。
室外機の建屋の一部が外れており、騒音が酷いため何とかしてほしい。	外れている部分を固定しました。音が出ないように修理して近隣の方への謝罪をした。
卓球倉庫前のスロープが雨で濡れると滑りやすいので何とかしてほしい。	スロープに滑り止めテープを張り対応した。
トイレ使用後に水を流さない人がいる。次に利用する人にとっては不快で仕方がない。	トイレ内に注意喚起のポスターを目線の位置に掲示した。
健康相談室の自動血圧計が混雑して密になる。故障で記録紙が出ず、手書きをすることも流れが悪くなっている原因。何とかならないか（ボディケアスクール参加者）。	健康相談室の自動血圧計を記録紙が出るように修理するとともに、ボディケアスクールの会場である集会室に、手首式自動血圧計を複数用意することで密になることを解消した。
窓を開けて換気をするのは良いと思うが、蚊が入ってきて気になる。	ご意見を頂いた直後に置き型の虫よけを設置するとともに網戸設置を検討し発注。その2週間後に網戸を設置した。
玄関の自動検温器の反応が悪く、なかなか測定できない。デパートにあるものはこんなに反応が悪くない。	新たな機器の導入はすぐには出来ないが、ご意見については社として受け止めたことを伝える。また、機械の反応が特に悪い寒い日は、職員がハンディタイプの非接触検温器で検温を実施した。

7 総括

(1) 指定管理者による自己評価

ア 全体

総括 評価	C	所見	<ul style="list-style-type: none">●短期講座や脳トレを含めた自主体操等、介護予防の拡充に取り組んだ。新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度に全6区で予定していた高齢者福祉講座の開講を本年度に振り替えて実施した。●骨密度や脳年齢、血管年齢など多種にわたる測定を定期的実施し、利用者の健康に関する意識を向上させるとともに、新規利用者の獲得へ繋げることができた。●機関紙配布、ポスター掲示、新聞折り込み広告、近隣の公共施設や商店へのチラシ配布など多岐にわたる広報手段の活用、また、健康フェスティバルや地域へ出向いての出張体操教室、健康測定会において、事業案内等の営業活動を行うことで、新規利用者の獲得に繋がられた。●SNS（ツイッター）の導入により、動画を活用した、より分かりやすい事業内容の説明、かつ、事業の募集状況や活動案内、同好会案内等、随時更新による、最新の情報の提供を可能とした。●各関係機関との繋がりを持ち、連携を図ることで、離れた場所にあることで来館しにくい団体や、高齢者の会合に積極的に出向き、介護予防の事業を進めた。●地域福祉部門の地域部会と連携を図り、介護予防の出張体操や看護師による出張健康相談、また日頃測る機会の少ない骨密度測定などを、出張健康測定会で実施した。●各区のいきいきプラザ・センターと社協事務所が、合併による効果でより地域の特性や地域課題に基づいた事業を推し進めることが可能となり、定期的に双方の情報交換や移動支援に着手する区も出てきた。また、新型コロナウイルス感染症の影響で、限られた人数ではあったものの、社会福祉協議会地区部会を始め、介護予防事業の出張事業を進めることができた。
----------	---	----	--

イ 施設別

施設名	総括評価	所見
<p>中央いきいき プラザ</p>	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●密にならないように部屋の定員を定め、換気を行い、定時の消毒を行うなどして新型コロナウイルス対策を行った。来館時には、手指消毒、検温の協力を依頼し、感染予防に努めた。 ●「生きがい活動支援通所事業」では新型コロナウイルス感染防止対策として、午前と午後に分け半分の人数で実施した。また体力測定を4項目行い、全市平均を出すことが出来た。また、男性利用者向けに生きがい内での麻雀実施を広報した結果、男性利用者が増えた。 ●講演会は、認知症予防講座を意識したものを含め事業計画を上回る20講演を行った。定員を減らしている中、人気の講座は、受講できない方が多く発生した。その対策として、同じテーマの講演会を2回実施する等の工夫を行った。 ●プラザフェスティバルの代替えとして、希望団体による少数団体での作品展覧会やビデオ撮影による学習上映会を実施し、成果の発表の機会を作った。 ●アリオ蘇我で行われた中央区健康課主催の健康イベントに共同で血管年齢測定会を実施し、市民に対し健康意識の普及と介護予防の啓発を行った。 ●あんしんケアと協働し、ふれあいサロン活動の体操教室を出張で行った。 ●高齢者の心身の不安や悩みに寄り添う健康相談や生活相談を継続的に行った。 ●事業案内を館内掲示やホームページ、ツイッターにて発信した。また、近隣地域にある40の自治会の延べ300枚の回覧板にいきいきだよりや参加者募集のチラシを挟んでもらうことで施設の広報を行った。 ●R3年度の老年看護学臨地実習Iについては、学校側の判断による実習中止があり、学校側から、オンラインによる代替実習ができないかとの相談があり、全プラザ・センターを代表して今年度もオンライン実習を実施した。

- こてはし温水プール複合施設の大規模修繕による休館の間、代替施設を確保し、生活・健康相談、ボディケアスクール、講演会、世代間交流、ゲートボール場の開放、生きがい活動支援通所を継続して実施した。
- 昨年度より引き続き、感染症対策として、看護師が窓口に立ち、利用者の検温、手指消毒を実施しながら対話して健康状態の把握に努めた。休館中は電話により、積極的に利用者の状況を把握し相談に応じた。
- 休館期間中の高齢者福祉講座の実施を見合わせたが、代替として高齢者講演会を計画6回から大幅に拡充し、延べ80回を開催し、延べ1,138人が参加した。人数制限がある中、なるべく多くの方に参加していただけるよう2部制や2、3カ月単位の短期で開催する等対応した。
- シニアリーダー事務局と連携を図り、シニアリーダー体操の立ち上げを支援した。大規模修繕による休館中は公民館で実施できるよう調整し、活動が継続できるよう見守った。
- 地域交流として、夏休み映画上映会、秋のコンサート等6回、世代間交流として寄せ植えやビーズブレスレット、クイリングカード、ワイヤークラフト等の創作を4回実施し、プール利用者や地域住民へ参加の機会を設けた。また、パンフレットの配布等により広報活動に努めた。
- 千葉北高校吹奏楽部によるコンサートは、秋は3密を防ぐため屋外のゲートボール場を活用した。冬は公民館との共催により、コロナ禍で発表の機会が少ない学生に、発表の機会を設けた。
- こてはし台・さつきが丘あんしんケアセンターによる出張相談会を継続し、介護・福祉・医療等多岐にわたる相談援助を実施した。
- 介護等体験、看護実習生の受け入れをし、高齢者の健康保持や地域生活支援に関する学習機会を提供した。
- 区社会福祉協議会と連携し社協地区部会実務者を対象に、骨密度や血管年齢、脳年齢測定、ポッチャや認知症予防体操の研修会を開催した。また、出張教室の案内チラシを作成し、社協区事務所を通じて地区部会へ配布したことにより、健康測定や、ポッチャ、介護予防体操等、地域へ出向いて実施した。
- 公民館と連携を図り、大規模修繕による休館期間中においても同好会の活動が継続できるよう情報提供に努めた。
- 理学療法士による個別相談で利用者の痛みや悩みに対応したこと及び広報を強化したことにより相談数が増加した。
- ツイッターを活用し、事業案内、活動報告を随時公開した。要望に応じて登録を支援し、利用者が情報を得る機会を増加させた。

- 高齢者講演会は、新型コロナウイルス感染症対策を行いつつ、人気の高い講演会については、2部制にして参加の機会を増やすなど、事業計画を上回る計17回開催した。また、タイトルを工夫するなどして男性の参加率増に繋げた。
- 生きがい活動支援通所は、民生委員へ周知し、「出張生きがいミニ体験会」を実施して男性の新規利用者に繋げた。
- いつでも自由に参加しやすい体操教室として、ちばしいいき体操後に参加者同士がポッチャや輪投げ等で交流する「自主体操広場」を新たに企画実施した。
- あんしんケアセンター稲毛と協働して、ちばしいいき体操のDVDを視聴しながら、利用者が自主的に体操できる「自主体操」を企画実施した。また、稲毛区健康課と協働して体力測定会を実施した。
- 在宅医療・介護連携支援センターと協働でZoomによるオンライン形式による講演会を実施した。
- 支え合いの地域づくりを担うボランティア育成のために区事務所やあんしんケアセンター稲毛と連携して、「傾聴ボランティア講座」、「認知症サポーター養成講座」を実施した。認知症サポーター養成講座の修了者にはステップアップ講座への案内や、両講座の修了者がボランティア活動に繋がるよう区ボランティアセンターと連携を図った。
- 屋外ゲートボール場を有効活用するために、団体利用のない午前中の時間帯においても個人開放を新たに設けるなどしてサービスの向上を図った。
- 広報活動（いきいきだより）については、地域住民への情報発信を強化するために、自治会など配架先を6箇所増やして広報の充実を図った。また、社会福祉協議会区事務所と連携して地区部会のふれあい・いきいきサロンへ職員を派遣するチラシを作成し、周知を図った。
- 前年度に引き続き、社会福祉協議会区事務所と定期的に会議を設けて、情報共有や事業連携に努めた。

<p>若葉いきいきプラザ</p>	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●利用の促進として、いきいきだより・チラシを作り施設内や施設外でのイベントの際に配布した。パンフレットを社協若葉区事務所より地域の方への配布を依頼した。ツイッターによる情報を日々発信した。 ●高齢者講演会を計画より大場を上回る回数を実施した(12回)。人気のある講演会(健康作り系)は2~3回シリーズにて開催した。ボランティア講師を積極的に活用した。 ●同好会では、部屋の定員制限を設け3密対策を講じながら、より安心・安全に活動していたたげるよう会員の皆様にご協力頂きながら換気と室内消毒を徹底し新型コロナウイルス感染防止に取り組んだ。 ●地域交流として看護実習生の受入、高齢者の健康保持や地域生活支援に関する学習機会を提供した。プラザフェスティバルは中止したが代替イベント(演奏会・作品展示)を開催した。 ●近隣施設等との連携として、あんしんケアセンター等が参加する地域ケア会議に参加しネットワークの構築や地域ケアの推進に努めた。 ●地域のあんしんケアセンターによる「出張相談会」を毎月4回実施した。 ●社協若葉区事務所と連携をして地域の地区部会での地域福祉講座に職員を派遣した。 ●若葉区健康課と共催にて高齢者講演会を開催した。 ●自主事業として、いきいき体操・公民館への出張体操教室・健康測定会を実施した。 ●新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐ対策として、検温、マスクの着用、手指のアルコール消毒、部屋の消毒、風呂の人数制限等を実施した。
<p>緑いきいきプラザ</p>	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●プラザフェスティバルの代替えとしてミニフェスティバルを実施した。講座や同好会の作品を分散して展示し、演奏やダンス、体操等の団体は活動の様子を動画や写真を撮影して、ロビーのモニターで放映した。 ●地域交流「セニアカー試乗体験会」を企業の協力の下、駐車場の一角を活用して実施した。免許の返納を考えている高齢者の方や、親のことを考え試乗や説明を聞きに来る方がいた。 ●介護予防や体操、座学等の講演会をシリーズ開催も含め16回実施した。空いている部屋を活用して、土曜・日曜日の開催を増やした。新規利用者獲得のため、プレ60歳の方も参加できるようにして、フランス人講師によるフランス語講座を開催した。 ●「毎日が介護予防」と題して、館内にあるウォーキングマシンや手すりのある階段を活用して、仮想で歩いて日本一周や、階段昇降で富士山登山を無理なく楽しんでいただいた。 ●冬至の時期にゆず湯を実施し、入浴する方に季節感を味わっていただいた。 ●ホームページやツイッターを活用して、イベントの案内や募集、報告等の情報発信を行った。 ●誉田あんしんネットワーク会議や見守りネットワーク会議土気に積極的に参加し、関係機関や民生委員と情報交換や共有をして、協力体制の強化に努めた。あんしんケアセンターには講演会講師として協力していただいたり、協働でいきいきサロンに出向き、測定会や体操等を行った。 ●緑区災害対応合同訓練に、区内関係機関と協働して、要支援者に実用性の高い避難支援が行える体制を構築する訓練に参加した。

- 社会福祉事業団と社会福祉協議会の合併による相乗効果を発揮する為、社協美浜区事務所との連携を強化し、お互いの機能を生かす事業展開を目指した。コロナ禍において活動を休止している社協地区部会等の活動再開のきっかけ作り、いきいきプラザの機能を活用してもらうため、活動再開支援メニューチラシを作成し、社協地区部会代表者会議等で配布、いきいきプラザの周知・PR滑動を行った。
- 上記周知・PR活動の結果、社協打瀬地区部会と合同で初となる大規模な「出張健康フェスティバル」を開催、新たな利用者の獲得及び知己との繋がりを確立した。フェスティバルの運営に当たっては、近隣看護学校などの協力も仰ぎ学生ボランティアが参加するなど、地域の様々な人々が関わる機会ともなった次年度以降も共同開催し、更に拡充していく。
- あんしんケアセンター高洲、社協美浜区事務所、UR都市機構コミュニティ等、地域の高齢者支援に関わる機関と地域ケア会議を開催、地域高齢者支援に関する課題共有の他、コロナ禍における出張体操等の運営継続等について具体的な話し合いを行った。
- 美浜区の高齢化率上昇や独居高齢者増加に大きな影響を及ぼしているUR都市機構コミュニティの高洲第1・第2団地について、UR都市機構コミュニティ本社担当課、高洲第1・第2団地の生活支援アドバイザーと、地域高齢者の外出支援や生活相談の支援等を通しての関係づくりに注力した。春にはUR主催の「地域ウォークラリー」のスタンプポイントとして参加。多数の地域住民がプラザを訪れ、新たな市民へのPR活動となった。また、冬には「高洲第2団地初冬祭り」に健康測定・相談ブース（骨密度・血圧・健康相談）と、施設紹介パネルブースを出展させてもらい、新たな利用者獲得に向けた活動を行うことが出来た。
- 新規利用者の獲得、プラザ事業のPRの新たな広報の方法として、民間企業である「株式会社地域新聞社」と協同し、地域密着型のフリーペーパー「ちいき新聞」へプラザの行事や講演会等の募集記事を掲載した。2月に実施した「作品展示会」について、地域新聞を見て初めて来館したという方が多数おり、また記事掲載された講演会についても、アンケート回答で「初めて来館した」という方が73.3%、「地域新聞を見て申し込んだ」という方が71.7%と、新たな利用者獲得を実現することが出来た。
- 新規利用者、次世代の利用者（50～60歳）、男性利用者の利用を促進させる為、「美浜いきいきプラザは海に近い」という立地を生かし、生涯の趣味として楽しめる海釣りをテーマにした講演会を開催した。社会貢献事業に力を入れている地域の釣り具チェーン店に講師を依頼し、本社を巻き込む形で実施。参加者45人中、新規利用者33人、次世代利用者5人、男性利用者40人と目論見通りの結果となった。
- 世代間交流事業「冬休み 書初め宿題お助け隊」を開催、プラザで活動する書道同好会2団体の会員にボランティア講師の協力を仰ぎ、地域の小中学生を対象に書初めの指導及び交流を行った。高齢者にとってはご自身の力を発揮する機会となり、子供たちは難しい書初めのポイントを教えてもらうことが出来るなど、お互いにとってWinWinな交流機会となった。完成した書初め2作品のうち1作品を提供してもらい、プラザ作品展示会で展示し来館者の目を楽しませる作品となった。

		<ul style="list-style-type: none"> ●相談業務について、業務改善を行い、生活相談・健康相談共に大幅に相談数を伸ばすことが出来た。健康相談については、生きがい活動支援通所事業参加者との人間関係構築について見直し、日々の健康チェックに今まで以上に濃く関わりを持つことで、困った時に相談できる場所として定着が進んだ。 ●新規利用者の獲得・プラザ事業の周知を目的に、公的機関だけでなくイオンスタイル検見川浜店やスーパーカスミ、ヤオコー等の近隣商業施設にパンフレットや事業紹介チラシの配架協力を行い、受け入れてもらうことが出来た。
<p>蘇我いきいきセンター</p>	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●事業紹介の広報を館内掲示、ホームページ掲載、センターだより、近隣自治会などへの回覧、中央老人クラブ連合会などに出向き行った。 ●高齢者講演会は色々なジャンルを31回行った。その中で体操系は非常に高い人気があり、理学療法士による体操は申し込みに朝から並んでいる状態であった。利用者より麻雀を覚えたいという要望が多くあり、利用者増の目標も踏まえて、「初心者麻雀教室」をボランティア講師の協力で提供した。 ●毎年新宿公民館を拠点に活動する団体より体操講師の派遣依頼を受け、出張体操や相談を行い、地域の高齢者の介護予防を支援した。 ●健康相談や生活相談を通じ、地域で暮らす高齢者の不安や悩みに対し、心に寄り添った相談援助を行った。 ●自主事業のいきいき体操を実施することで、機能回復訓練に参加できなかった方にも体操で身体を動かす機会を提供した。また、シニアリーダー体操やいきいき百歳体操を中央区健康課と協力して開催した。 ●プラザフェスティバルの代替えとして、希望団体による少数団体での作品展示会やビデオ撮影による学習上映会を実施し、成果の発表の機会を作った。

<p>花見川いきいきセンター</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●花見川団地自治会、住宅自治会をはじめ、地域の図書館、保育所、小・中学校に協力依頼し広報に努めた。 ●高齢者講演会は、計画4回を上回る延べ27回を開催し、315人が参加した。うち4回はボランティア講師を活用した。長期の自粛生活による「身体を動かしたい」という要望を受け、体操系講演会を多く企画した。また後期講座の代替として、6回連続の体操講演会を3講座設けた。 ●センターフェスティバルの代替行事として同好会の作品展示会と活動の様子を撮影した写真展示会を開催し、同好会の活動を支援した。 ●世代間交流は感染症拡大防止のため保育所等との交流を変更し、ハーバリウム作成等のワークショップを開催し、地域の小学生との交流を図った。 ●地域交流事業として七夕とクリスマス時期に管弦楽コンサートを2部制で開催し、地域の方へ施設を広報するとともに、季節の演奏を楽しんでいただいた。また落語観賞会も開催し、本格的な落語に触れる機会を提供した。 ●健康状態の把握と健康に対する意識を高める為、脳年齢と血管年齢の測定週間（各2週間、各2回）を実施した。 ●あんしんケアセンター花見川と連携し、認知症サポーター養成講座や健康フェスティバルでの相談会を開催した。 ●ツイッターを活用し、事業案内、活動報告を随時公開した。要望に応じて登録を支援し、利用者が情報を得る機会を増加させた。
<p>さつきが丘いきいきセンター</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●さつきが丘公民館と連携し、近隣自治会14団体へ毎月のいきいきだよりを回覧し新規利用者獲得に繋げた。また、ホームページやツイッターを活用し、より一層の広報に努めた。 ●高齢者講演会は、計画4回を上回る延べ31回を開催し、340人が参加した。その内、体操講演会は26回実施、ボランティア講師を6回活用した。 ●世代間交流は、感染症拡大防止のため保育所との交流を中止し、施設内での製作活動等に変更し、計3回実施した。その内、ボランティア講師を2回活用した。 ●利用者交流支援として、例年実施のクリスマスコンサートに加え、七夕コンサートを実施した。 ●センターフェスティバルを例年と開催方法を変更して実施した。学習発表会は事前に活動の様子を撮影し、密にならないよう配慮して上映した。作品展示会は、日程を分散してロビーに1団体1週間ずつ展示していただき、より多くの方に鑑賞していただけるよう配慮した。 ●DVDを活用したいいきいき100歳体操（土曜）は、利用者の要望に応え、三部制に増加し、定期的な運動の機会を提供した。 ●看護実習生を9人受け入れ、高齢者の健康保持や地域生活支援に関する学習機会を提供した。

あやめ台
いきいきセンター

C

- 高齢者講演会は、新型コロナウイルス感染症対策を行いつつ、介護予防や健康づくり、暮らしに役立つ内容を多く取り入れ、事業計画を上回る計54回を開催した。
- 利用者交流事業として、「スカットボール交流会」や「折り紙交流会」など事業計画を上回る計62回を開催した。また、「折り紙交流会」の参加者へフォローアップし、同好会活動に繋げた。
- 男性を対象とした「いきいき体操」を新たに企画実施し、参加率の低い男性の参加率増に繋げた。
- 地域の秋祭りで「スカットボール体験会」を実施し、多くの子供から高齢者の多世代交流の機会を設けた。
- 2カ所の社協地区部会のふれあい・いきいきサロンに出向き、計3回出張体操教室を実施した。
- 支え合いの地域づくりを担うボランティア育成のために区事務所やあんしんケアセンター園生と連携して、「傾聴ボランティア講座」、「認知症サポーター養成講座」を実施した。認知症サポーター養成講座の修了者にはステップアップ講座への案内や、両講座の修了者がボランティア活動に繋がるよう区ボランティアセンターと連携を図った。
- あやめ台小学校耐震工事に伴うセンター休館中の対応として、出張教室専用のチラシを作成し、社協区事務所や近隣自治会等の会場を借用して地域への出張教室を行うとともに、施設事業案内するなどして新規利用者の開拓を図った。
- 広報活動（いきいきだより）については、地域住民への情報発信を強化するため、公民館など配架先を昨年度より5箇所増やして広報の充実を図った。
- 前年度に引き続き、社協区事務所と定期的に会議を設けて、情報共有や事業連携に努めた。

大宮
いきいきセンター

C

- 日々の感染拡大防止策として、長話・高唱禁止の説明やお願いなどに細心を払い取り組んだ。
- 利用者に対して、新型コロナウイルス感染症に関する正確な情報提供や、質問・相談に対して看護師・保健師はもちろん、他職種の職員も含めて親身になって対応した。
- 広報紙いきいきだよりに、事業の開催予定を早め早めに掲載したり、開催報告を写真入りで掲載するなど、施設の情報発信を効果的に行った
- 高齢者講演会や健康測定会など参加者を募集する行事については、ホームページへの掲載を欠かさず行った。
- 高齢者のニーズに沿った内容の高齢者講演会を年10回実施した。うち1回はボランティア講師を活用した。延べ99名が参加した。
- 新規の団体へ準備運動を兼ねたストレッチ体操の出張体操を実施した。
- 世代間交流会で、大宮小学校と大宮小学校アフタースクールと世代間交流を行う予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止となった。
- 指導員の積極的な声掛けを通して、生活相談の件数が増加した。
- 生きがい活動支援通所事業において、介護予防効果を測るため、体力測定を実施した。
- 大宮小学校主催の会議に出席し、地域の保育所、公民館、自治会等と情報交換を行い連携を深めた。センターの事業紹介も行った。
- 高齢者の地域生活を包括的に支援する社会資源としての一翼を担うべく、関係機関(保健福祉センター、あんしんケアセンター5か所、地区社会福祉協議会、民生・児童委員、生活支援コーディネーター、老人クラブ連合会、地区の病院の地域連携室)との定例会議に出席し、必要時は個別に連絡を取り協力体制をとった。
- 看護実習生の受け入れ、高齢者の健康保持や地域生活支援に関する学習機会を提供した。

<p>都賀 いきいきセンター</p>	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●主催事業（生きがい活動や講座・講演会等）参加者や来館者に対して、新型コロナウイルス感染症に関する正確な情報、最新の情報を提供し、生活相談や健康相談で詳細を対応した。生活相談は、相談数が前年35人から63人に増加した。 ●高齢者講演会は、理学療法士の講演会4回を含め、体操系・脳トレ・趣味系・音楽系と多様な内容で、当初計画の5回を大幅に上回る、14回を実施した。 ●あんしんケアセンター等との連携として、出張相談会や認知症サポーター養成講座の講師を依頼し開催した。 ●世代間交流は、園児・児童等低年齢層との交流は実施できなかったが、老後資金の準備と働き方や認知症サポーター養成講座、センターフェスティバル代替イベントでの折り紙同好会会員と若年層との交流の場が開催できた。 ●地域交流としての、センターフェスティバルは開催が出来なかったが、フェスティバル代替イベントとして、感染対策を充分に取りながら、講演会3つとサクサンサンプルによる演奏会とあんしんケアセンター出張相談会等を開催した。また、利用者交流支援として、前年開催できなかった、都賀いきいきセンター寄席を人数制限をしながら、2部制で開催した。 ●近隣施設との連携として、「みつわ台地区部会・地域福祉講座」に看護師による健康講話や指導員による体操で実施に参画した。また、若葉区地域ケア会議に出席し、地域包括ケア推進課や若葉保健福祉センター、あんしんケアセンター等と意見交換・情報交換等を行った。 ●高齢者講演会やイベントの開催にあたっては、ボランティア講師を多く依頼するとともに、土曜日・日曜日を中心に企画し、開催イベント22回のうち19回を土・日に開催し、応募者・参加者の充足率は高かった。
<p>越智 いきいきセンター</p>	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●センターフェスティバルの代替えとしてミニフェスティバルを実施した。講座や同好会の作品を分散して展示し、生きがい活動や、体操等の団体は活動の様子を動画や写真を撮影して、ロビーのモニターで放映した。 ●介護予防や体操、座学等の講演会をシリーズ開催も含め18回実施した。 ●千葉市生涯学習センターや誉田公民館と協働で、オンライン寄席を開催した。いきいきセンター及び市内老人ホーム等にも配信し、たくさんの方に観覧していただいた。 ●世代間交流「3Dボックス」の広報を越智小学校に協力いただき、小学生の参加希望が多かった。好評いただいたため、午前の部のみ実施予定であったが、午後の部も設定し定員を増やした。 ●見守りネットワーク会議士気に積極的に参加し、関係機関や民生委員と情報交換や共有をして、協力体制の強化に努めた。あんしんケアセンターには生きがい活動教養講座の講師として協力していただいたり、協働でいきいきサロンに出向き、測定会や体操等を行った。 ●センター前の広場を活用して、生きがい活動時にグランドゴルフを実施した。 ●緑区災害対応合同訓練に、区内関係機関と協働して、要支援者に実用性の高い避難支援が行える体制を構築する訓練に参加した。

土気
いきいきセンター

C

- センターフェスティバルの代替えとしてミニフェスティバルを実施した。同好会の作品を分散して展示し、活動の様子を動画で撮影をして、モニターで放映した。
- 介護予防や体操、座学等の講演会をシリーズ開催も含め17回実施した。
- 土気小学校1年生との世代間交流「昔の遊び」を、学校の体育館で行った。感染症対策のため、前後半に分け各回4～5グループの少人数に分けていろいろな遊びを通して交流した。
- 次年度高齢者福祉講座体験会を高齢者福祉講座の募集期間に合わせて行い、講座内容の周知や広報、宣伝を徹底し、参加者に応募を促した。
- 見守りネットワーク会議土気に積極的に参加し、関係機関や民生委員と情報交換や共有をして、協力体制の強化に努めた。あんしんケアセンターと協働でいきいきサロンに出向き、測定会や体操等を行った。
- 土気小学校、土気公民館、土気市民センターと協働して、九都県市合同防災訓練に参加した。
- 緑区災害対応合同訓練に、区内関係機関と協働して、要支援者に実用性の高い避難支援が行える体制を構築する訓練に参加した。
- 衆議院選挙での期日前選挙、当日投票の会場として集会室及びロビーの貸し出しを行った。

真砂
いきいきセンター

C

- 社協美浜区事務所との連携を昨年度以上に強め、地域の社協地区部会活動の支援を積極的に行った。活動休止中の地区部会等の再開のきっかけ作りとして、いきいきプラザ・センターの機能を活用してもらうために、支援メニューを掲載したチラシを作り代表者会議で配布、プラザ・センターの周知・PR活動を行った。また、社協真砂地区部会では新規にラジオ体操活動の立ち上げについて協議を行い、社協打瀬地区部会では美浜いきいきプラザと協力し、初となる大規模な出張健康フェスティバルを企画段階から強力にバックアップし、成功に導いた。
- 新型コロナウイルス感染症対策によって、今まで支援していた全ての出張体操先での活動が中止となったことによる地域住民の運動不足を補うため、毎月発行するいきいきだよりに、家庭で取り組むことが出来る運動を写真付きで毎月掲載し、配布を行った。
- 利用者数の増加や新規利用者確保を目指し、イオンスタイル検見川浜店やヤオコー稲毛海岸店、カスミ稲毛海岸店へパンフレットや「理学療法士によるホームエクササイズ冊子」の配架を依頼し、事業の広報に努めた。
- 施設にあるグラウンドゴルフの道具を定期的に貸し出し、近隣の老人会の運動機会確保の支援を行った。
- 千葉市立高等特別支援学校に対し、作業実習（ビルクリーニング）の場として真砂いきいきセンターを提供。プロ仕様の用具や洗剤を使用して、センターの窓ガラスの清掃などを行ってもらうとともに、感謝状を贈るなど学生と高齢者が交流する機会を設けた。
- 近隣あんしんケアセンターと連携し、生きがい活動支援通所事業利用者に「千葉市いきいき活動手帳」を配布、日頃の血圧管理や活動内容を記録してもらい、健康意識の向上に役立ててもらった。
- 世代間交流事業として、同好会ボランティアによる小中学生を対象とした「書初め宿題お助け隊」を実施。ボランティア、小中学生共にいきいきと活動出来る場面を設定した。
- 職員のスキルを活かし、療育センターふれあいの家において藍染講座の講師を引き受け、利用者交流の支援を行った。
- 高齢者福祉講座・講演会について、内容の拡充やマンネリ化を解消するために、千葉市生涯学習センターの協力を仰ぎ、新規講師探しに注力し、結果5名の新規講師と打ち合わせを行うことが出来た。

(2) 市による評価
ア 全体

総括 評価	C	所見	<p>概ね市の求める水準に則した、良好な管理運営が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 利用者アンケートによる満足度は市の定める数値目標を上回った。 ● 管理運営の履行状況は、各種事業を市の定める実施回数以上実施するなど、市の定める水準を上回る管理運営が行われた。 ● 新型コロナウイルスの感染拡大への対策として、各部屋の消毒や利用者の体温測定などを実施し、感染防止に努めた。
----------	---	----	---

	利用者数	満足度	管理運営の履行状況								管理 経費 縮減	総合	A又はB の割合	D又はE の割合
			1 市民の平等 利用の確 保・施設の 適正管理	2 施設管理能 力(1)	2 施設管理能 力(2)	3 施設の効用 の発揮(1)	3 施設の効用 の発揮(2)	3 施設の効用 の発揮(3)	4 その他					
市による評価	—	C	C	C	C	C	C	C	B	C	-	C	13%	0%
中央いきいきプラザ	—	C	C	C	C	C	C	C	B	C	-	C	13%	0%
花見川いきいきプラザ	—	B	C	C	C	C	C	C	B	C	-	B	25%	0%
稲毛いきいきプラザ	—	B	C	C	C	B	C	C	B	C	-	B	38%	0%
若葉いきいきプラザ	—	B	C	C	C	C	C	C	B	C	-	B	25%	0%
緑いきいきプラザ	—	C	C	C	C	B	C	C	B	C	-	B	25%	0%
美浜いきいきプラザ	—	C	C	C	C	C	C	C	B	C	-	C	13%	0%
蘇我いきいきセンター	—	C	C	C	C	D	C	C	C	C	-	C	0%	13%
花見川いきいきセンター	—	C	C	C	C	B	C	C	B	C	-	B	25%	0%
さつきが丘いきいきセンター	—	B	C	C	C	B	C	C	B	C	-	B	38%	0%
あやめ台いきいきセンター	—	B	C	C	C	B	C	C	B	C	-	B	38%	0%
大宮いきいきセンター	—	B	C	C	C	D	C	C	B	C	-	C	25%	13%
都賀いきいきセンター	—	B	C	C	C	D	C	C	B	C	-	C	25%	13%
越智いきいきセンター	—	B	C	C	C	B	C	C	C	C	-	B	25%	0%
土気いきいきセンター	—	B	C	C	C	B	C	C	B	C	-	B	38%	0%
真砂いきいきセンター	—	C	C	C	C	B	C	C	B	C	-	B	25%	0%

施設名	総括評価	所見
中央 いきいきプラザ	C	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員全員が普通救命講習を受講している。 ● 施設間で貸し出し可能な備品のリストを作成している。 ● 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各部屋の消毒や利用者の体温測定を実施している。 ● ご意見箱を設置したり事業ごとにアンケートを実施したりするなど、利用者の意見を広く募っている。 ● 理学療法士による個別相談を実施している。 ● 高齢者講演会を年間に18回開催している。 ● 同好会の活動支援として、希望者のコーディネートや体験会を実施している。 ● 松ヶ丘地区地域運営委員会が主催する円卓会議に参加している。 ● また、中央区健康課が主催しアリオ蘇我で開催した健康増進啓発イベントに参加し、イベントの進行スタッフや血管年齢測定を行うなど地域とよく連携している。 ● 指定管理運営の基準に記載のない業務を高齢福祉課に断りなく実施した。 ● 提案書に記載されている「地域メディアを活用した広報」を実施していない。 ● 男性の利用率が4%程度だが、事業内容や広報に工夫を行っていない。
花見川 いきいきプラザ	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員全員が普通救命講習を受講している。 ● 施設間で貸し出し可能な備品のリストを作成している。 ● 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各部屋の消毒や利用者の体温測定を実施している。 ● Twitterを活用し広報を実施。利用者に対してアカウント作成の補助をするなど周知に努め、いきいきプラザの中で一番フォロワーの数が多い。 ● ご意見箱を設置したり事業ごとにアンケートを実施したりするなど、管理運営の基準を超えて利用者の意見を広く募っている。 ● 理学療法士による個別相談を実施している。 ● 高齢者講演会を年間に24回、世代間交流を4回開催している。 ● 同好会の活動支援として、希望者のコーディネートや体験会を実施している。 ● 新型コロナウイルスの感染拡大への対策として、定員制の導入や各設備の消毒を実施している。 ● ゲートボール場を演奏会の会場として使用するなど多様な方法で活用している。 ● 季節の行事のほかに地域交流事業のコンサートの飾りづくりを実施。演奏者・観覧者から好評で当事業利用者の励みとなるなど創意工夫している。 ● あんしんケアセンターと協働し出張相談会を実施。また、休館中には近隣自治会に出張教室募集の呼びかけを実施した。

稲毛
いきいきプラザ

B

- 職員全員が普通救命講習を受講している。
- 施設間で貸し出し可能な備品のリストを作成している。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各部屋の消毒や利用者の体温測定を実施している。
- Twitterや新聞折り込みチラシを活用し広報を実施。
- ご意見箱を設置したり事業ごとにアンケートを実施したりするなど、管理運営の基準を超えて利用者の意見を広く募っている。
- 理学療法士による個別相談を実施している。館内にチラシを掲示するなど広報に努め利用者が多い。
- 高齢者講演会を17回開催している。また、「男性向けの筋力アップ教室」を開催し男性の参加者が全体の5割を超えるなど、前例に囚われることなく効果的な事業を実施している。
- 同好会の活動支援として、希望者のコーディネートや体験会を実施している。
- 世代間交流を4回、地域交流を1回開催。また、同好会の発表会を撮影し上映を計画するなど、感染症対策が必要な中、創意工夫して事業を行っている。
- 新型コロナウイルスの感染拡大への対策として、定員制の導入や各設備の消毒を実施している。
- ゲートボール場を毎朝のラジオ体操や卓球・ボッチャといったゲートボール以外の事業にも活用しており、他のプラザと比べ利用者が大幅に多い。
- 体験会を企画し、民生委員の会合で独居の高齢者へ勧奨するようお願いするなど創意工夫している。この体験会を通じて男性利用者を獲得するなど効果も出ている。
- 稲毛区健康課と協働し講演会を実施。ZOOMを用いて講演会を開くなど創意工夫したものであった。
- 正当な理由なくマスクを着用せずに利用することが常態化している利用者への対応ができていなかった。

<p>若葉 いきいきプラザ</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●職員全員が普通救命講習を受講している。 ●施設間で貸し出し可能な備品のリストを作成している。 ●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各部屋の消毒や利用者の体温測定を実施している。 ●ご意見箱を設置したり事業ごとにアンケートを実施したりするなど、管理運営の基準を超えて利用者の意見を広く募っている。 ●理学療法士による個別相談を実施している。 ●高齢者講演会を、11回開催している。 ●同好会の活動支援として、希望者のコーディネートや体験会を実施している。 ●世代間交流を6回、地域交流を1回開催している。 ●新型コロナウイルスの感染拡大への対策として、定員制の導入や各設備の消毒を実施している。 ●定例地域ケア会議や若葉区多種連携会議へ出席している。若葉健康課と講演会を共催した。 ●自治会への回覧や地域メディアを通じて広報を実施するとの提案がなされていたが実施されていない。
<p>緑 いきいきプラザ</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●職員全員が普通救命講習を受講している。 ●施設間で貸し出し可能な備品のリストを作成している。 ●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各部屋の消毒や利用者の体温測定を実施している。 ●Twitterや新聞の折り込みチラシを活用し広報を実施。 ●ご意見箱を設置したり事業ごとにアンケートを実施したりするなど、利用者の意見を広く募っている。 ●理学療法士による個別相談を実施している。 ●高齢者講演会を12回開催している。 ●同好会の活動支援として、希望者のコーディネートや体験会を実施している。 ●年間に地域交流を2回、世代間交流を5回開催予定である。毎年開催している同好会等の発表会はコロナで開催できなかったが、規模を縮小し動画による発表会とするなど創意工夫している。 ●新型コロナウイルスの感染拡大への対策として、定員制の導入や各設備の消毒を実施している。 ●あんしんケアセンター誉田や緑区健康課と協働して講演会を開催した。

<p>美浜 いきいきプラザ</p>	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員全員が普通救命講習を受講している。 ● 施設間で貸し出し可能な備品のリストを作成している。 ● 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各部屋の消毒や利用者の体温測定を実施している。 ● 地域新聞に同好会の活動発表の情報を提供したりTwitterを活用したりするなど積極的に広報を実施。 ● ご意見箱を設置したり事業ごとにアンケートを実施したりするなど、管理運営の基準を超えて利用者の意見を広く募っている。 ● 利用者に積極的に声かけを実施し生活相談の件数が他施設よりも多い。健康相談も書式を改良し相談内容を記録しやすくするなど創意工夫している。 ● 理学療法士による個別相談を実施している。館内にチラシを掲示するなど広報に努め利用者が多い。 ● 高齢者講演会を11回開催している。 ● 同好会の活動支援として、希望者のコーディネートや体験会を実施している。 ● 地域交流を2回、世代間交流を3回開催している。 ● あんしんケアセンター真砂が主催する会議に参加し、施設のPRを行うとともに高齢化や独居などの地域課題を共有している。URとは、高齢化率の高さや独居といった問題を解決するため、出張体操を共催したり冬まつりに測定会を出張で行ったりするなどよく連携している。 ● 男性の利用率が12%程度だが、事業内容や広報に工夫を行っていない。
<p>蘇我 いきいきセンター</p>	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員全員が普通救命講習を受講している。 ● 施設間で貸し出し可能な備品のリストを作成している。 ● 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各部屋の消毒や利用者の体温測定を実施している。 ● ご意見箱を設置したり事業ごとにアンケートを実施したりするなど、管理運営の基準を超えて利用者の意見を広く募っている。 ● 高齢者講演会を31回開催している。 ● 同好会の活動支援として、希望者のコーディネートや体験会を実施している。 ● 蘇我コミュニティセンターの会議に出席。中央区健康課と共同でシニアリーダー体操やいきいき100歳体操を実施。 ● 提案書に記載されている「地元メディアへの情報提供」を実施していない。 ● 理学療法士による個別相談が実施されていない。

<p>花見川 いきいきセンター</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員全員が普通救命講習を受講している。 ● 施設間で貸し出し可能な備品のリストを作成している。 ● 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各部屋の消毒や利用者の体温測定を実施している。 ● Twitterを活用し広報を実施。 ● ご意見箱を設置したり事業ごとにアンケートを実施したりするなど、管理運営の基準を超えて利用者の意見を広く募っている。 ● 看護師が特に親身に相談に乗ることにより、他施設より相談件数が多い。 ● 理学療法士による個別相談を実施している。 ● 高齢者講演会を11回開催している。 ● 同好会の活動支援として、希望者のコーディネートや体験会を実施している。 ● 地域交流を2回、世代間交流を4回開催している。 ● あんしんケアセンター花見川の出張相談会を受け入れた。また、花見川区健康課と講演会を共催した。 ● 男性の利用率が2%程度だが、事業内容や広報に工夫を行っていない。
<p>さつきが丘 いきいきセンター</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員全員が普通救命講習を受講している。 ● 施設間で貸し出し可能な備品のリストを作成している。 ● 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各部屋の消毒や利用者の体温測定を実施している。 ● Twitterを活用し広報を実施。 ● ご意見箱を設置したり事業ごとにアンケートを実施したりするなど、管理運営の基準を超えて利用者の意見を広く募っている。 ● 理学療法士による個別相談を実施している。館内にチラシを掲示するなど広報に努め利用者が多い。 ● 高齢者講演会を31回開催。センターの中でも特に実施回数が多く参加者数も多い。 ● 同好会の活動支援として、希望者のコーディネートや体験会を実施している。 ● 地域交流を3回、世代間交流を3回開催した。 ● あんしんケアセンターさつきが丘、花見川区健康課と講演会を共催した。また、毎日実施している自主体操（100歳体操）は利用者の運動習慣定着に役立っている。 ● 男性の利用率が約1%だが、有効な対策を実行できていない。

<p>あやめ台 いきいきセンター</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員全員が普通救命講習を受講している。 ● 施設間で貸し出し可能な備品のリストを作成している。 ● 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各部屋の消毒や利用者の体温測定を実施している。 ● Twitterを活用し広報を実施。ユニバーサルデザインに配慮したチラシを作成するなど創意工夫している。 ● ご意見箱を設置したり事業ごとにアンケートを実施したりするなど、管理運営の基準を超えて利用者の意見を広く募っている。 ● 理学療法士による個別相談を実施している。 ● 高齢者講演会を54回の開催している。男性向けの体操教室を開催するなど前例に囚われることなく創意工夫して実施している。 ● 同好会の活動支援として、希望者のコーディネートや体験会を実施している。 ● 地域交流を1回、世代間交流を5回開催。あやめ台団地の秋祭りへ出張ブースを出した際は150人が集まるなど盛況だった。 ● 新規・男性利用者の獲得のため、社会福祉協議会稲毛区事務所及び民生委員を通じて広報や体験会を実施。 ● 社会福祉協議会稲毛区事務所へ出張体操の広報や受付を依頼するなどよく連携している。
<p>大宮 いきいきセンター</p>	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員全員が普通救命講習を受講している。 ● 施設間で貸し出し可能な備品のリストを作成している。 ● 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各部屋の消毒や利用者の体温測定を実施している。 ● ご意見箱を設置したり事業ごとにアンケートを実施したりするなど、管理運営の基準を超えて利用者の意見を広く募っている。 ● 理学療法士による個別相談を実施している。 ● 高齢者講演会を10回開催している。 ● 同好会の活動支援として、希望者のコーディネートや体験会を実施している。 ● あんしんケアセンター大宮台と1対1で会議を行い、情報を共有している。自主事業の利用者交流として実施した「ポッチャ大会」は大宮小学校の体育館を借用して開催し、延べ60人以上が参加するなど盛況だった。 ● 提案書に記載されている「地域メディアを活用した広報」を実施していない。 ● 男性の利用者が7%と低いが、有効な対策を実行できていない。

<p>都賀 いきいきセンター</p>	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●職員全員が普通救命講習を受講している。 ●施設間で貸し出し可能な備品のリストを作成している。 ●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各部屋の消毒や利用者の体温測定を実施している。 ●ご意見箱を設置したり事業ごとにアンケートを実施したりするなど、管理運営の基準を超えて利用者の意見を広く募っている。 ●高齢者講演会を14回開催している。 ●同好会の活動支援として、希望者のコーディネートや体験会を実施している。 ●地域交流を1回、世代間交流を3回開催した。 ●あんしんケアセンター都賀・桜木・みつわ台の出張相談会を受け入れた。また、若葉区定例地域ケア会議に出席し情報交換を行っている。 ●提案書に記載されている「地域メディアを活用した広報」を実施していない。 ●提案書に記載されている「理学療法士による個別相談」を実施していない。
<p>越智 いきいきセンター</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●職員全員が普通救命講習を受講している。 ●施設間で貸し出し可能な備品のリストを作成している。 ●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各部屋の消毒や利用者の体温測定を実施している。 ●Twitterや新聞の折り込みチラシを活用し広報を実施。 ●ご意見箱を設置したり事業ごとにアンケートを実施したりするなど、管理運営の基準を超えて利用者の意見を広く募っている。 ●理学療法士による個別相談を実施している。 ●同好会の活動支援として、希望者のコーディネートや体験会を実施している。 ●地域交流を1回、世代間交流を2回開催。地域交流は例年より縮小して開催となったが、同好会の発表会を撮影し、動画として放映するなど創意工夫している。 ●あんしんケアセンター誉田・土気と連携して出張体操を実施。緑区健康課や土気公民館と協働して講演会を実施。 ●提案書内で「働く高齢者が参加しやすいよう開催曜日に配慮する」としているが、休日開催の講演会がない。 ●男性利用者が3%しかいないが、対策を実施していない。

<p>土気 いきいきセンター</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●職員全員が普通救命講習を受講している。 ●施設間で貸し出し可能な備品のリストを作成している。 ●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各部屋の消毒や利用者の体温測定を実施している。 ●Twitterや新聞の折り込みチラシを活用し広報を実施。 ●ご意見箱を設置したり事業ごとにアンケートを実施したりするなど、管理運営の基準を超えて利用者の意見を広く募っている。 ●理学療法士による個別相談を実施している。 ●高齢者講演会を18回開催している。 ●同好会の活動支援として、希望者のコーディネートや体験会を実施している。 ●地域交流を1回、世代間交流を5回開催。地域交流は例年より縮小して開催となったが、同好会の発表会を撮影し、動画として放映するなど創意工夫している。 ●あんしんケアセンター土気、緑区健康課と講演会を共催した。また、オーリーブ鎌取福祉作業所へ紙すきの講師を依頼するなど近隣施設と連携して事業を実施している。
<p>真砂 いきいきセンター</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●職員全員が普通救命講習を受講している。 ●施設間で貸し出し可能な備品のリストを作成している。 ●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各部屋の消毒や利用者の体温測定を実施している。 ●Twitterを活用し広報を実施。 ●ご意見箱を設置したり事業ごとにアンケートを実施したりするなど、管理運営の基準を超えて利用者の意見を広く募っている。 ●理学療法士による個別相談を実施している。館内にチラシを掲示するなど広報に努め利用者が多い。 ●高齢者講演会を14回の開催している。また、男性や若い人向けの体操講座を実施した。 ●同好会の活動支援として、希望者のコーディネートや体験会を実施している。申請書類をHPで公開するなど利用者の利便性向上に努めている。 ●地域交流を1回、世代間交流を5回開催した。 ●近隣の特別支援学校の清掃実習を受け入れて清掃後に高齢者と交流する機会を設けた。また、あんしんケアセンター磯辺や社協地区部会と連携して出張測定会や健康相談会を実施した。

【評価の内容】

- A：市が指定管理者に求める水準等を大きく上回る、特に優れた管理運営が行われていた。
- B：市が指定管理者に求める水準等を上回る、優れた管理運営が行われていた。
- C：概ね市が指定管理者に求める水準等に則した、良好な管理運営が行われていた。
- D：管理運営の一部において市が指定管理者に求める水準等に達しておらず、改善の余地のある管理運営が行われていた。
- E：管理運営全般において市が指定管理者に求める水準等に達しておらず、速やかな改善が求められる管理運営が行われていた。

(3) 保健福祉局指定管理者選定評価委員会の意見

- ・財務状況については、財務状況が好転したことにより良好と認められる。
 - ・コロナ禍の状況で、感染症防止対策については、敬意を表したい。引き続き、利用者の信頼に応えられるよう、感染拡大防止に努めていただきたい。
 - ・管理運営については、概ね適切に管理が行われていると認められるが、次の事項に留意されたい。
- ①ビジョンのうち地域包括ケアシステムについては、わかりやすい表現を検討いただきたい。
 - ②市と社会福祉協議会の決算の整合性が確認、把握できるような決算書の検討をしていただきたい。
 - ③新規利用者を拡大できるよう、地域ニーズ等を踏まえた企画の実施を検討いただきたい。
 - ④広報については、ツイッター等々に取り組みられているが、さらに多くの人に周知できるような工夫を継続して検討いただきたい。